

ループリックを活用した
児童の主体的に学習に取り組む態度を
育成するカリキュラム
指導者用手順書

令和5年3月

東京都教職員研修センター
教員研究生
カリキュラム開発研究

目次

本カリキュラムについて	2
カリキュラムのキーワード	3
指導の流れ概要	4
各時間の指導について	5
Q & A	12
ルーズリックと手だての例	14
参考資料	15

本カリキュラムについて

＜本カリキュラムの概要＞

本単元は特別支援教室（通級による指導）を利用する児童に対し、主体的に学習に取り組む態度を育成することを目的に開発されました。

児童本人の思いや願いを基に設定された目標の達成に向けて、児童と指導者とが共同でルーブリックを作成し、実行していくことで、児童の「見通し・行動（行動調整）・振り返り」の力を高めます。

なお、本カリキュラムは児童と指導者との対話による目標設定や振り返りが活動の中心となるため、低年齢の児童や言語表現に課題が大きい児童に対して実施する際は、児童の実態に合わせた修正が必要となります。

＜本カリキュラムの目標＞

- 1 目標の達成に向け、見通しをもって、具体的な計画を立てたり調整したりできる。
- 2 目標の達成に向けて、手だてを調整しながら行動しようとする。
- 3 自分の行動を目標の達成に照らし合わせながら振り返り、その後の行動の見通しにつなげることができる。

カリキュラムのキーワード

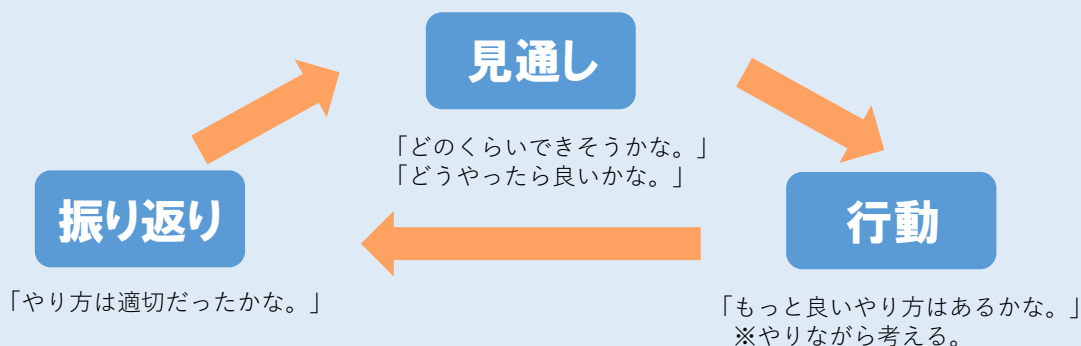
＜ルーブリック＞

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度
(①) と、それぞれのレベルに対応するパ
フォーマンスの特徴を示した記述語（評価規
準）(②) からなる評価基準表

例：「挨拶をする」のルーブリック

①	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
②	挨拶を返す。	挨拶を相手に 聞こえる声で して返す。	担任の先生に 自分から挨拶 する。	担任以外の先 生にも、自分 から挨拶する。

＜見通し・行動・振り返りのサイクル＞ Anticipation-Action-Reflection (AAR) Cycle



ウェルビーイングの向上に向けて、
自分で工夫しながら取り組んでいく力を高める。

指導の流れ概要

特別支援教室

第1時 目標設定・手だての設定

見 通 し	1 か月先の目標を決める。
	目標達成のルーブリックを作る。
	翌週までの目標達成の手だてを考える。

→ 5 ページ

第2・3時 振り返り・手だての設定

振 り 返 り	手だてが適切であったかを自己評価する。
見 通 し	翌週までの目標を決める
	翌週までの目標達成の手だてを考える。

→ 9 ページ

第4時 振り返り

振 り 返 り	1 か月の目標達成のための手だてや行動について振り返る。
	1 か月の目標達成のための手だてや行動について振り返る。

→ 11 ページ

在籍学級

手だての 実行

行 動	手だてを実行する。
振 り 返 り	担任等と一緒に手だての自己評価をする。

→ 8 ページ

第1時（20分間）の学習活動

1 学習の内容を理解する。

- ・ 児童が中心となって学習を進めることを確認する。

2 自分の目標を決める。

- ・ 自分のなりたい姿や苦手なこと、得意なことなどを基に1か月後の目標を考える。

3 ルーブリックを作る。

- ・ 1か月後の目標達成に向けて4段階程度のルーブリックを作る。
- ・ 1か月の目標レベルを決める。
- ・ 現時点でのレベルを確認する。
- ・ 翌週の目標レベルを決める。

4 目標達成のための手だてを決める。

- ・ 翌週の目標を達成するために、「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのように」行うかを決める。
- ・ 目標達成に向けて、困りそうなことが無いかを予想する。ある場合は対策を検討する。
- ・ 来週までの目標がどのくらい「達成できそうか」を予想する。





☆目標達成のための手だては、指導者からの助言が必要になることがあります。目標の達成に向けて、児童が実践可能で効果的な案を提案しましょう。ただし、考える主体は児童にあり、指導者の案を取り入れるかどうかは児童が判断します。

第1時ワークシート(1)

目標

○児童の思いや願いを基に設定しましょう。

レベル表 (ルーブリック)

レベル 1 	レベル 2 	レベル 3 	レベル 4 
○各レベルの基準が簡単すぎたり難しすぎた場合は、途中で目標を修正しても構いません。本人にとってステップや目標が妥当であるかどうかを常に確認しましょう。	○ルーブリックは児童が中心となって作成します。 ○可能な限り具体的に記述できるように支援しましょう。 【指導者の言葉掛け例】 「どうなったらレベル4？」 「どんな場面で？」 「どのくらいの頻度で？」 「どのくらいの時間？」 「レベル2からちょっとだけ良い状態ってどういう状態？」		

月	日のレベル	レベル
<hr/>		
1 か月後	月	日の
目標レベル	○1 か月後の目標レベルは4 でなくても構いません。	レベル
		<hr/>

第1時ワークシート(2)

来週の目標はレベル

目標に関する見通し

目標達成のために、いつ、
どこで、なにをする？

困りそうなことや大変そう
なことはどんなこと？

○具体的な手だてを書ける
ように支援しましょう。
「がんばる」「きちんと
やる」などを児童が提案
してきた場合は、具体的
な行動はどのようなもの
かを確認します。

○下の困りそうなことへの
対策も記入します。

○担任などに手助けを求め
ることも大切な手だてで
す。頼み方なども一緒に
話し合しましょう。

どのくらいクリアできそう？（○を付ける）

絶対にできない

必ずできる

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



どうしてそう思った？

○なぜその数値を選んだのかを尋ねてみましょう。もし50以下であれば、「どうしたらもうちょっと数値が上がるかな？」と尋ねることで、目標達成のための手だてが見付かるかもしれません。

在籍学級等での 手だての実行と自己評価

1 手だてを実行する。

- ・特別支援教室で決めた手だてを実行する。
- ・うまくいかない場合は児童自身で取り組み方を修正する。

※他者の支援を手だてに設定している場合は、十分に活用する。

2 自己評価する。

- ・担任や専科担当教員、養護教諭やスクールカウンセラーなどと一緒に、次の特別支援教室の指導までに自己評価や手だての修正を行う。

途中評価のワークシート

途中チェック（先生と一緒にやってみましょう）		月	日記入
目標にそって行動できている？（○を付ける）	できていない 少しできている できている		
目標はちょうど良い？（○を付ける）	かん		
目標や、やり方を直す必要はある？（○を付ける） あるならどんなこと？	ある		

○担任等には、児童が自分の目標に向かって取り組む姿を認め、励ましてくれるよう事前に依頼しておきます。

○事前に決めた手だてがうまくいっていない場合は必要に応じて助言してくれるように依頼しておきます。

第2・3時（15分間）の学習活動

1 1週間の取組を振り返る。

○ワークシートを基に、自分の取組を振り返る。

【振り返りの視点】

- ・目標は適切だったか。
- ・手だては適切だったか。
- ・自分で行動しながら、必要に応じて、手だてを修正したか。
- ・担任等と共に行った自己評価ではどのようなやり取りを行ったか。

2 ルーブリックを修正する。 手だてを決める。

○振り返りを基に、ルーブリックを修正する。

【例】

- ・レベル2が難しすぎるので、更にステップを細分化する。
- ・1週間の取組を基に、1か月後の目標の内容を一層具体的にする。

○振り返りを基に、来週までの手だてを決める。

【例】

- ・先週取り組んだ手だてが有効だったので、引き続き行う。
- ・先週行った手だてのうち、効果を高めるため、一部を修正する。
- ・先週取り組んだ手だてのうち、うまくいかなかった手だては採用せず、別の手だてを設定する。
- ・途中で○○先生に手伝ってもらったのでとても助かったので、次回に向けて手助けを依頼してみる。

第2時・第3時ワークシート

ふり返り	月	日	記入	
目標はクリアできた？	<small>まった</small> 全くでき なかった	少し できた	かなり できた	<small>かんべき</small> 完璧に できた
今のレベルは <u> </u> レベル				
目標はちょうど良かった？	<div> ○目標が簡単すぎたり難しすぎた場合は、なぜそう感じたのかも尋ねましょう。その上で、ルーズリックの内容修正が必要であれば行います。 </div>			
うまくいったことは？				
うまくいかなかったことは？				

○どのようにうまくいったのか、なぜその手だてが有効だったのかを明確にすることが大切です。児童の実態に合わせながら、成功場面を再現できるように支援しましょう。

○目標が達成できなかったことを注意してはいけません。なぜ手だてを実行できなかったのか、うまくいかなかったのかを話し合い、よりよい手だてを考えていきましょう。

☆目標の達成にかかわらず、目標達成に向けて児童が手だてを試してみたり、やり方を工夫したりしている姿を大いに認め、肯定的に評価していくことが重要です。

第4時（20分間）の学習活動

1 1週間の取組を振り返る。

○ワークシートを基に、自分の取組を振り返る。

【振り返りの視点】

- ・目標は適切だったか。
- ・手だては適切だったか。
- ・自分で行動しながら、必要に応じて、手だてを修正したか。
- ・担任等と共にを行った自己評価ではどのようなやり取りを行ったか。

2 1か月の取組を振り返る。

○ワークシートを基に、1か月の取組を振り返る。

【振り返りの視点】

①目標達成について

- ・目標は適切だったか。（難易度・内容等）
- ・手だては適切だったか。
- ・今後どう取り組んでいこうと思っているか。

②見通し・行動・振り返りについて

- ・自分で目標を決めたり、計画を立てたり、やってみる中で気付いたことや分かったことはあるか。
- ・今回の学習を通して学んだことを、これからの在籍学級等の生活でどのように生かしていこうと思うか。そのために、指導者等に助けを求める必要はあるか。



&

**No. 1****児童が、目標を思いつかない場合はどうすれば良いですか？**

児童の普段の様子から、児童の困っている事の改善につながったり、児童の願いにつながるような目標をいくつか提案しましょう。その中から児童が選択し、合意の上で学習を進めましょう。

**児童が提案するルーブリックの内容が、現実的に達成不可能なのですが…**

客観的な視点からの助言を行っても問題ありません。しかし、指導者の押し付けにならないように注意し、最終的には児童が内容を決定できるようにしましょう。振り返りの際に、自分の見通しが適切であったかどうかを再度検討し、修正を行うことができるように支援していきましょう。

**ルーブリックの内容を考えることが、児童にとって難しすぎるようです。**

低年齢の児童や言語表現が苦手な児童にとっては、自分でルーブリックを作成することが難しい場合があります。その場合は、指導者がルーブリックを提案し、内容の調整を促したり、最終的な採用の判断を児童に委ねたりすることで、児童が当事者意識をもてるようにしましょう。



No.2



振り返りの場面で、児童の自己評価が現実に即していないように思われます。

まずは、自分で振り返って語ろうとしていることを肯定的に評価しましょう。その上で、担任や専科教員、特別支援教室専門員や保護者からの客観的な意見を伝えることで、児童の客観的な視点を育てていきましょう。児童は、自分への評価が低すぎることも高すぎることもあり得ます。



児童がルーブリックを作れたものの、目標達成のための手だてを考えることが難しいようです。

児童の考えを基に、児童の成長に結び付くような手だてとなるように助言をして構いません。在籍学級で取り組むこと、特別支援教室で取り組むこと、周囲に支援を求めることなど、必要な手だてを提案しましょう。ただし、指導者が提案した手だてを採用するかは、児童が判断します。



児童が担任と一緒に「自己評価の時間」を設定することが難しいです。

学級の事情等により、児童が担任と一緒に自己評価を行うことが困難な場合がありますので、担任以外の教員や保護者と行っても構いません。誰と一緒にする場合でも、事前に相手に説明・相談するとともに、できるだけ児童と共に目標やルーブリックの説明を行いきましょう。

ループリックと手だての例

目標：挨拶をする。

レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
挨拶を返す。	挨拶を大きな声で返す。	担任の先生に自分から挨拶する。	担任以外の先生にも、自分から挨拶する。

< 目標達成の手だての例 >

特別支援教室で

- ・指導者や友達と挨拶の仕方の学習・練習をする。

学校生活で

- ・先生の顔を見たら、小さい声でもよいので挨拶する。
- ・特別支援教室専門員の先生と一緒に、担任の先生に挨拶する。
- ・登校班で学校に着いた時が、あまり緊張しなさそうなので、そこで門に立っている先生に挨拶するのを意識してやってみる。

家で

- ・毎日 1 回お母さんと挨拶の練習をする。

目標：授業に参加する。

レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
特別支援教室の授業を、45分間教室内で取り組む。	授業時間中、教室にいて、他者の妨げをせずに過ごす。	全ての授業時間、教室にいて、一部の授業では、課題に取り組む。	全ての授業時間、教室にいて、課題に取り組む。

< 目標達成の手だての例 >

特別支援教室で

- ・体や気持ちを落ち着ける練習をする。
- ・素早く文字を読むトレーニングをする。

学校生活で

- ・クッションを椅子に置かせてもらう。

家で

- ・時々ストレッチをする。
- ・学校で頑張ったことを保護者に聞いてもらう。

参考資料

<全般>

- ・「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省 平成29年4月
- ・「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」文部科学省 平成30年3月
- ・「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」文部科学省 令和3年1月

<特別支援教室について>

- ・「特別支援教室の運営ガイドライン」東京都教育委員会 令和3年3月
- ・「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画～共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進～」東京都教育委員会 令和4年3月

<AARサイクルについて>

- ・「ANTICIPATION-ACTION-REFLECTION CYCLE FOR 2030」OECD 令和元年
- ・「OECD Learning Compass 2030 仮訳 OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」OECD 令和2年4月
- ・「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー、資質・能力とカリキュラム」白井 俊 令和2年

<ループリックについて>

- ・「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」文部科学省 平成24年8月
- ・「平成27年12月22日中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 総則・評価特別部会 教育課程部会 総則・評価特別部会（第3回） 配付資料」文部科学省 平成27年12月

令和5年3月
東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
教員研究生
台東区立石浜小学校
主任教諭 小野 拓人